

手賀沼ナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイ船上調査

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 顧問 小倉 久子

千葉県が、2021年1月から、手賀沼の大堀川河口部を皮切りに北千葉第二機場、大津川河口と侵略的外来水生植物のナガエツルノゲイトウとオオバナミズキンバイの大規模駆除を実施しています。駆除後の再繁茂状況の確認、沼内の未実施エリア全域の分布状況を船上より調査しました。

日時 2022年11月7日(月) 10:00~13:00

集合 手賀沼親水広場第2駐車場

調査場所 手賀沼全域(上沼、下沼)

参加者 滋賀県立琵琶湖博物館 中井克樹さん

千葉県立中央博物館 林紀男さん

美手連7名

使用船舶 みずすまし号(古川船長)

スケジュール

9:30 手賀沼親水広場 第2駐車場 集合

10:00 我孫子手賀沼漁協棧橋 出航

⇒上沼 本駆除後の再繁茂状況を確認

⇒北岸の未実施エリア⇒若松植生帯

⇒高野山新田の植生帯

⇒フィッシングセンター ⇒岩井新田

13:00 我孫子手賀沼漁協棧橋 帰航



R4 年度駆除エリア
(令和4年度手賀沼外来生物駆除事業仕様書から)

調査地点図



【1】本駆除後の再繁茂状況(その1) 手賀沼南西部: 令和4年度に駆除実施箇所

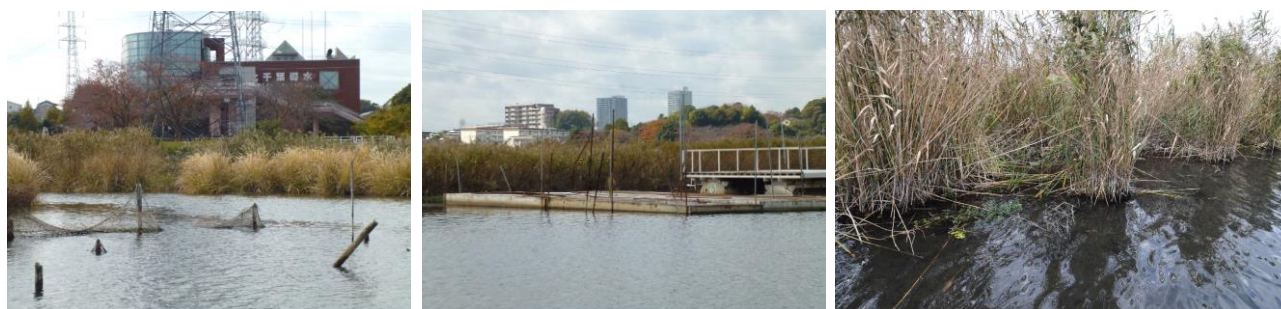
今年度駆除を実施した場所で、まだ3~4か月しか経過していないにもかかわらず、しっかりと群落ができている。

駆除の取り残しから発芽したものではなく、大堀川や大津川から流れてきた群落が漂着して、そのまま生長を続けているものと推測される。一日も早く供給源をなくすことが必要である。



【2】本駆除後の再繁茂状況（その2）北千葉第2機場地先、花火台：令和4年度に継続駆除実施箇所

北千葉第2機場地先では目立った再繁茂はみられず、すっきりとしていた花火台地点でもほとんど再繁茂は見られなかったが、東側のヨシ群落に入り込んだナガエから、群落の（再）形成が始まっていた。（その1）と較べて、継続駆除を行った（その2）では、再繁茂の度合いが少ないように見受けられた。



【3】根戸新田～我孫子新田地先（駆除未実施エリア）

この一帯はオオバナだけの群落となっており、沖側に厚く張り出すとともに、マコモ群落の中にも侵入していた。



【4】手賀沼公園地先（R4年度補助金事業実施エリア）

夏に、「湖沼における外来水生植物防除事業補助金」を受けて、他団体が駆除を実施した場所である。実施した駆除面積は不明であるが、水際の張り出し部分が減った程度で、駆除の効果は確認できなかった。相変わらず、ナガエとオオバナが拮抗して、パッチ状にそれぞれ優勢の場所を保持していた。



【5】若松植生帯の内側

植生帯と護岸の間は、ナガエとオオバナで埋まりつつある。植生帯に漂着した細片から始まったナガエやオオバナの群落が、植生帯の内部と水面側の両方に拡がりつつある。



かんがい期には植生帯の中まで水でナガエ・オオバナの断片が運ばれてきて着底・繁茂し、非かんがい期には、植生帯から水面に広がって行く。

【6】高野山植生帯

こちらの植生帯も、数年の間にすっかりナガエに覆われてしまった。



【7】曙橋付近のヒメガマ帯

以前と比べるとヒメガマ帯の厚みが大きく衰退しているが、減少速度はやや鈍化しているかもしれない。



【8】フィッシングセンター桟橋付近

前面に広がりつつあるのは、ほぼオオバナで、急速に広がっていた。だが、陸地に近いエリアではナガエが優勢で、湿地のヨシの間には、ナガエが入り込んでいた。



【9】岩井新田地先（ハス群生地跡）

ハス群落という障壁がなくなった今、抽水植物群落の根元にナガエ・オオバナがどんどん侵入し始めている（下左）。水位が下がったため、ヨシ帯の前面に洲浜が露出していた。ここがナガエ・オオバナに占領されるのは、時間の問題か（下右）。

